

### 3 図書館利用調査の実施

#### (1) 図書館利用調査

調査対象はおもに館外貸出登録者の一般人、大学生を主体として登録者1,446人中、常時利用推定人員1,000人と見て、その10%、100人とし、可能なかぎり幅広く回答を求めるといことから、3月1日～6日の6日間にわたって調査を行なった。100人中回答を提出してくれたのは91人で、一般人56人、学生35人となっている。

質問の内容および回答人員は表9の通りであるが、各項目についての結果を十分に検討して今後のサービス向上につとめなければならない。

表9について以下若干の説明を加える。

- ① の2階一般室の公開図書については、現在約7,000冊の図書が自由に閲覧できるようになっているが、回答からしても、また県立図書館としての規模からしても、多少座席数を犠牲にしても現在の倍の冊数が備えられなければならないだろう。
- ② 分類別にもっとも利用する順に記入してもらったものだが、文学、社会科学がやはり多く、芸術がこれに次いでいるのは、趣味、娯楽、スポーツ等もこの部門に含まれているということもあろう。

③ 時々刻々に出版されたものが「ある」か「ない」かについては、一般男子の場合相半ばしているが、これは現在わが国で年間出版される点数が20,000点のうち、図書館に備えられるものが2,000点ということからすれば、むしろ「ない」が大半を占めても不思議ではないだろう。

④ レアアレンスの資料となる図書を備えるという前提から、かりに問うて見たのであるが、学生と一般人とでは相反した結果を見せている。やはり公共図書館は幅広い性格のものであり、収書にあたっては、特に一般人の意向は尊重されなければならない。

⑤ 申請手続きには問題はないが、貸出冊数・期間については、ある程度の資料の充実が見られた今日では、冊数、期間の増延を行なってもよいと考えられる。

⑦ 具体的に出た事項を類別にまとめたものだが、最後の「県外の大学生…」の項を除いては殆んどが一般人の声であり、日常いろいろなことに多忙な一般の人々が1時間でも2時間でも暇を見つけて図書館に足を運ぶのであるから、図書館に入っただけで、入ったことによって、われわれが日常のわづらわしさを解放され、文化的モードにひたれるよう、図書館の環境を魅力あるものにしなければならない。

表9 県立図書館利用調査 昭和40年3月1～6日実施  
回答内訳 一般(男41人,女15人)56人 学生(男14人,女21人)35人 計 91人

質問事項	一般			学 生			合 計
	男	女	計	男	女	計	
① 2階の公開図書の利用について伺います。							
a) 見たいものは大体ある。	23	3	26	1	7	8	34
まにあわないのでカードで調べる。	10	4	14	9	10	19	33
その他	2	2	4	4	4	8	12
b) たびたび借りる。	17	9	26	11	14	25	51
毎度借りてる。	13	3	16	1	1	2	18
一度も借りたことがない。	3	2	5		5	5	10
② 利用種別							
哲学	4	1	5	3	3	6	11
歴史地誌	8	2	10	2	4	6	16
社会科学	19	2	21	9	12	21	42
自然科学	11	3	14	7	4	11	25
工学	6	—	6	2	—	2	8
工業	4	—	4	2	—	2	6
芸術	15	6	21	7	7	14	35
語学	2	1	3	5	6	11	14
文壇	20	11	31	7	11	18	49
児童	2	—	2	—	2	2	4

#### ③ 新着図書について

a) 新聞、雑誌等に紹介されているもので読みたいと思ったものは大体

あ	15	8	23	7	12	19	42
な	14	4	18	5	2	7	25
そ	2	1	3	1	3	4	7

b) こんなものは入れてほしい。

こ	12	5	17	9	7	16	33
---	----	---	----	---	---	----	----

① 「図書」については次のようであった。

随筆・教養もの。法律関係の改訂版。社会科学関係で日常の話題となるもの。建築工学、参考図書、芸術、医学、科学、教育、社会福祉、推理小説、他に具体的に書名